

領域別評価表 【未来を拓く学力】

中期重点目標 (育成する力)	主体的・協働的・創造的に探究する力 「できる」と自ら信じられる力
-------------------	-------------------------------------

数値指標 (本年度目標)	◎「自分にあった学習」と「みんなと学ぶ学習」で力を伸ばすことができた。80%（とても 60%） ○興味を持って学習を続けた。80%（とても 60%） ○昨年度より本に触れる機会が増えた。90%（とても 50%）	中間評価
		A

達成状況			
児童アンケート	「自分にあった学習」と「みんなと学ぶ学習」で力を伸ばすことができましたか。	肯定的回答 93%（とても 67%）	中間評価
		Legend: □できた (0-33%), ■だいたいできた (33-67%), ▨あまりできなかった (67-93%), ▤できなかった (93-100%) Data: 67%, 26%, 6%, 1%	A
	興味を持って学習を続けましたか。	肯定的回答 92%（とても 67%）	中間評価
		Legend: □続けた (0-33%), ■だいたい続けた (33-67%), ▨あまり続けなかった (67-92%), ▤続けなかった (92-100%) Data: 66%, 27%, 6%, 1%	A
	昨年度より本に触れる機会が増えましたか。	肯定的回答 76%（とても 56%）	中間評価
		Legend: □増えた (0-33%), ■まあまあ増えた (33-56%), ▨あまり増えなかった (56-76%), ▤増えなかった (76-100%) Data: 56%, 20%, 14%, 10%	B

< 資料 >

取組状況			
教職員アンケート	個別最適な学び（指導の個別化・学習の個性化）の方法をイメージできましたか。	肯定的回答 90%（とても 33%）	
		Legend: □できた (0-33%), ■だいたいできた (33-90%), ▨あまりできなかった (90-95%), ▤できなかった (95-100%) Data: 33%, 57%, 10%, 0%	
	個別最適な学び（指導の個別化・学習の個性化）と協働的な学びを一体的に進めることができましたか。	肯定的回答 66%（とても 14%）	
		Legend: □できた (0-14%), ■だいたいできた (14-66%), ▨あまりできなかった (66-95%), ▤できなかった (95-100%) Data: 14%, 52%, 29%, 5%	
	本に触れる機会を増やす取り組みを行いましたか。	肯定的回答 90%（とても 52%）	
		Legend: □行った (0-33%), ■だいたい行った (33-52%), ▨あまり行えなかった (52-90%), ▤行えなかった (90-100%) Data: 52%, 38%, 10%, 0%	

中間 評価	総括（取り組みと実態 2学期に向けた課題） ・「協働的な学び」については、児童はみんなで学習することを肯定的に受け止めており、ペアやグループでの活動にも意欲的に取り組むことができた。 ・「個別最適な学び」の「学習の個性化」については、今年度から日課表に10分間の「学びの時間」を設けたことで、自分の学習活動や課題を主体的に調整する姿が見られた。「指導の個別化」については、指導主事訪問の一般授業や提案授業で研究実践を高めた。しかし、教職員アンケートの結果より、日々の授業に照らし合わせて、具体的なイメージや実践を豊かにする必要がある。これまでの授業形態から脱却し、児童が学習の進め方を選択できるように、教員の柔軟な授業づくりが今後の課題である。 ・「個別最適な学び」を充実させるための、児童のタブレットの活用が不十分であった。（3年生以上を対象に県が実施したアンケートの県平均との比較より） ・図書委員会主体で図書に親しむ取り組み（おススメの本の紹介・貸出上位者の発表）を行った。その結果、本に興味をもつ児童が増えた。 ・教員の読書指導に対する意識が高まり、図書室利用を促す声掛けを行ったことや、学びの時間の一部を読書の時間に充てることで本に触れる機会が増えた。
	改 善 策
	・「個別最適な学び」の「指導の個別化」については、これまでの授業形態を変えていく必要があるため、新しい授業の在り方をイメージできるよう具体的な事例や体験談を交流する場が重要となる。そこで、職員会議後に小グループで話をする「みんなでトークタイム」や校内研修、放課後の教材研究の場（各学年）を活用しながら情報を共有していきたい。また、「個別最適な学び」について教師自身の理解を深められるよう、参考図書を職員室内に置くなどして、個々の自己研鑽も促していきたい。 ・5・6年生については、7月から「算数」「英語」の児童用デジタル教科書が使えるようになったため、2学期以降積極的に活用していく。また、タブレットの充電庫の整備やタッチペン導入の検討、低学年にも分かりやすいQRコードの読み取り方マニュアルを作成するなど、タブレット使用に関わる環境整備を行っていく。webの無料プリントもタブレットで答えが分かるものなどを利用し、自分で学習を進められるようにしていく。これらの取り組みによって、タブレットを身近な学習の道具として授業や家庭で毎日使用するよう促していきたい。 ・町立図書館の司書の方の協力を得て図書環境を整えたり、ブックトークや読み聞かせを実施してもらったりする。 ・図書委員会が主体となり、本に触れる機会がさらに増えるような取り組みを行う。 ・読書好きな児童を増やすための校内研修を行い、教員の読書指導に対する意識をさらに高める。

領域別評価表 【幸せな社会を創る力】

中期重点目標 (育成する力)	多様性を認め あたたかくつながり合う力 主体的に学級・学校づくりに関わる力
-------------------	--

数値指標 (本年度目標)	◎自分や仲間を大切にしている。 90% (とても 70%) ○みんなで何かをするのは楽しい。 95% (とても 85%) ○学校や地域で心を届けるあいさつをしている。 80% (とても 60%)	中間評価
		A

達成状況			
児童アンケート	自分や仲間を大切にできましたか。	肯定的回答 97% (とても 80%)	中間評価
			A
	みんなで何かをするのは楽しいですか。	肯定的回答 98% (とても 85%)	中間評価
			A
	学校や地域で心を届けるあいさつができましたか。	肯定的回答 88% (とても 60%)	中間評価
			A

< 資料 >

取組状況			
教職員アンケート	自分や友達のよさを大切にし、支え合う「ことばの力」の育成に努めましたか。	肯定的回答 100% (とても 50%)	
	児童が主体的に活動できるよう指導・支援を工夫しましたか。(多様なアイディアを生かした行事、児童会、学級活動)	肯定的回答 100% (とても 50%)	
保護者アンケート	朝日小学校の児童は地域であいさつをしていますか。	肯定的回答 79% (とても 23%)	

中間評価	総括（取り組みと実態 2学期に向けた課題） ・ 体育大会の練習の中で上級生が下級生に応援をやさしく教える姿が見られた。本番では全校生徒が楽しめるような学年競技に取り組んだことで学校全体に、一体感が生まれた。体育大会後には「あさひの木」を児童玄関に掲示し、お互いの頑張りを認め合ったり、感謝を伝えたりした。 ・ 児童・保護者いじめアンケートをもとに、担任やスクールカウンセラーによる個人面談を行った。児童一人一人の悩みとしっかり向き合い、問題解決することができた。 ・ 児童会ではわくわくタイムで「学校クイズ」を行い、生活委員会では「挨拶カレンダー」に取り組むなど、各委員会で児童が学校をよくするために意欲的にアイデアを出し、活動内容を考えた。 ・ 地域での児童のあいさつは十分とはいえない。校内でのあいさつについては個人差がある。
	改 善 策 ・ 校外学習や学習発表交流会、マラソン大会などの行事の中でピア・サポート活動を行い、自分や友達を大切に作る心を育て、みんなで何かをするのが楽しいと実感できるような取り組みをしていく。また友達のよかったところを共有する活動も学校全体として取り組む。 ・ 2学期以降、担任は「友情」を価値項目とする教材を中心に公開授業を行う。授業の観点について参観者に周知したうえで公開授業を行い、道徳の授業力向上につなげ、日々の授業実践に生かせるようにする。 ・ 児童の人を傷つける言葉に対して適切に指導するなど、日頃より教員が「いじめは許さない」という姿勢と共に、温かいまなざしや愛情を持った言葉掛けで児童と接し、特に人権週間においては、低学年対象の人権教室、全学年対象の人権標語の作成等の活動を通して、人権意識を高める。 ・ 2学期以降も児童が主体となって、学校をよりよくしていくための取り組みを各委員会から企画し、提案していく。とりわけ、学校や地域でのあいさつ改善に向けて、重点的に取り組みを進める。また、児童がPDCAサイクルを回せるような支援を行う。 ・ 学校のきまりの見直しについて、児童が参画する機会を設け、集団や社会を創る力を育成する。

領域別評価表 【健やかな心身】

中期重点目標 (育成する力)	自らの「心・体・生活」を育む力
-------------------	-----------------

数値指標 (本年度目標)	◎つらいことがあっても元気な心にもどれた。80% (とても50%) ○子どもはメディアを適切に使用している。保護者 80% (とても25%)	中間評価
		B

達成状況			
児童 アンケート	つらいことがあっても元気な心にもどれましたか。	肯定的回答 85% (とても 61%)	中間評価
		もどれた 61% だいたいもどれた 24% あまりもどれなかった 10% もどれなかった 5%	A
保護者 アンケート	お子さんは、メディアを適切に使用していると思われますか。	肯定的回答 66% (とても 14%)	中間評価
		思う 14% まあまあ思う 52% あまり思わない 30% 思わない 4%	C

< 資料 >

取組状況			
教職員 アンケート	レジリエンスの授業を行いましたか。	肯定的回答 41% (とても 18%)	
		行った 18% だいたい行った 23% あまり行えなかった 30% 行えなかった 29%	
	生徒指導提要にある「発達支持・課題予防・困難課題」対応を意識して教育相談機能の向上に努めましたか。	肯定的回答 90% (とても 40%)	
		努めた 40% だいたい努めた 50% あまり努められなかった 10% 努められなかった 0%	
	メディア教育を通して、家庭と連携してメディアとのつきあい方について考え、実行するように指導・支援することができましたか。	肯定的回答 48% (とても 16%)	
		できた 16% だいたいできた 32% あまりできなかった 42% できなかった 10%	

中間評価	総括（取り組みと実態 2学期に向けた課題）
	【レジリエンスについて】 ・1学期は学級づくりのために、ポジティブ教育のソーシャルスキル（人と関わっていく上で大切なコミュニケーション力）トレーニングやピア・サポート（仲間同士支え合う）の授業が行われた。5年生では、レジリエンス（立ち直る心）の授業も行い、自分の強みを再認識した上で、自分を励ます言葉をしおりにする活動を行った。また、本校の目指す児童像である「あくまでがんばる子」のような、粘り強く頑張っている児童に声をかけ、認める取り組みを、全教員が日々行っている。 【教育相談について】 ・教育相談機能の向上のため、スクールカウンセラーと連携し「相談箱」を職員室前と図書室の2ヵ所に設置した。児童が自ら相談できる力を身に付けられるよう、自分で用紙を書いて入れるようにした。実際、数人ではあるが担任との面談では相談事がなかった児童から面談希望があった。 【メディアについて】 ・1学期はアンケートで実態調査を行った。学年が上がるごとに使用時間が長くなる傾向があり、知らない人とつながる割合も増えることがわかった。全学年のアンケート結果をまとめ保護者に配布し、結果を見て感想や課題を書いてもらい、各家庭で夏休み中のメディアルールについて考えてもらった。また、保護者にメディア使用について困っていることについてアンケートをとった。
	改 善 策
	【レジリエンスについて】 ・学年の行事なども増える2学期に、担当・内容・実施時期も決め計画的にレジリエンス教育を行っていく予定である。また、実施した内容に関して記録を残し、どの学年でどの内容を取り組んできたのかが、次の年度に明確になるようにし、系統的にレジリエンスの授業を行っていけるようにする。 【教育相談について】 ・相談箱の存在を再認識してもらうために、2学期も申込書を配布し、相談できることを伝えていきたい。また、「担任との定期的な面談とは別に、相談したいことがあるか」や「誰と相談したいか」などのアンケートをする予定である。 【メディアについて】 ・アンケートの実態調査をふまえて、どのような取り組みをしたらよいか保健委員会で考え、全校に提案していく予定である。 ・11月に1・2年生は教師によるメディア指導を、3～6年生は「e-ネットキャラバン」によるメディア使用に関するオンライン授業を行う予定である。 ・メディア指導を通して生活や意識に変容があったかどうかを確認するため、10月末頃にメディアアンケートを行う予定である。また、冬休み前にはもう一度、各家庭でのメディアとの付き合い方について考えてもらう予定である。

領域別評価表 【well beingを実現する学校】

数値指標 (本年度目標)	◎子どもは喜んで朝日小学校に通っている。保護者90%（とても50%） ○朝日小学校で働くことにやりがいを感じている。教職員90%（とても50%）	中間評価
		B

達成状況			
保護者アンケート	お子さんは、喜んで朝日小学校に通っていると思われますか。	肯定的回答 89%（とても 46%）	中間評価
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	B
教職員アンケート	朝日小学校で働くことにやりがいを感じていますか。	肯定的回答 95%（とても 50%）	中間評価
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	A

< 資料 >

取組状況			
教職員アンケート	すべての児童に目を向けた働きかけや活動の設定を行いましたか。	肯定的回答 83%（とても 32%）	
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
教職員アンケート	「共生社会」や「インクルーシブ」の視点を意識した働きかけを行うことができましたか。	肯定的回答 82%（とても 32%）	
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	

中 間 評 価	総括（取り組みと実態 2学期に向けた課題）
	・児童、保護者、地域、教職員など、本校にかかわるすべての人々にとっての幸せを実現するため7つの具体的取組を設定した。 ・これまでの取り組みにより、ほぼ9割の保護者からわが子は喜んで学校に通っているという肯定的な回答を得ることができた。一方で、1割の保護者からは、わが子は幸せな学校生活を送ることができていないと感じている様子がうかがえた。すべての児童に目を向けた教職員の働きかけや活動の設定について、より一層の取り組みが求められる。 ・教職員については、9割を超える教職員がやりがいをもって教職にあたり、5割は、とてもやりがいを感じていると答えており、現状の取り組みを継続していくべきと考える。
	改善策
	・学ぶ意欲や自らの学習を調整しようとする姿を引き出す授業づくり、誰もが居場所や絆を感じることができる集団づくりを進め、すべての児童にとって魅力ある学校を目指していく。そのために、取り組みスケジュール表を活用するなどして、教職員個々が今一度スクールプランに立ち返って各具体的方策に協働性と創造性と責任をもって取り組んでいくことを確認し合いたい。 ・また、研修や校長講話などを通して児童や保護者の思いに対する教職員の感度を高め、思いに寄り添う心・姿勢・ことばの重要性についての共通理解を進めながら、家庭・地域と連携して教育活動にあたっていきたい。